

21. たけ みずてっぽう がっせん 竹水鉄砲合戦実行委員会

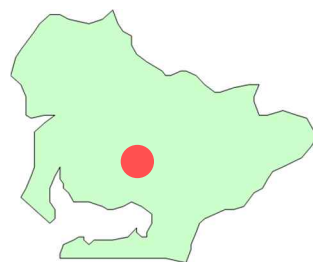
～ さあ決戦だ！ みんなで楽しもう竹水鉄砲合戦 ～

キーワード

国内観光

子ども(教育・体験)

その他(竹林の拡大や荒廃に対する対策案)



岡崎市



平成27年竹水鉄砲合戦 全国大会の戦い



竹水鉄砲合戦 小学生大会の戦い



小学校での授業の様子

活動のきっかけ

- ◆竹林の拡大や荒廃という環境問題に直面する地域で、「竹」を地域資源として活用するため、平成18年に「竹水鉄砲合戦」を考案し活動を開始

取組概要

- ◆会員による地域の竹林伐採や竹水鉄砲の研究・製造
- ◆市内小学生の授業の一環として、「竹水鉄砲合戦教室」を開催
- ◆「竹水鉄砲合戦全国大会」を企画運営し、これまでに計8回の大会を開催

活動の効果

- ◇竹藪の竹を間引き、資源として有効活用することで、景観の改善や竹やぶの維持管理を軽減
- ◇「竹水鉄砲合戦教室」への小学生の参加者が約30人から約150人(H23→H27)へ増加
- ◇「竹水鉄砲合戦全国大会」を定期的に開催したことで、交流人口が拡大し、地域が活性化
- ◇岡崎発祥の「竹水鉄砲合戦」は、老若男女を問わず大人から子どもまで楽しめるスポーツとして知名度が向上

竹水鉄砲合戦実行委員会

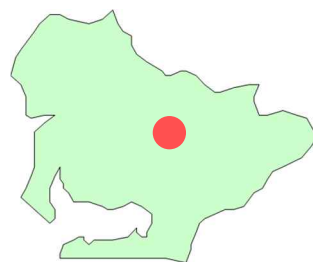
岡崎市康生通南3丁目2番地221ビル3F
(MSA221内)TEL:0564-84-2170

MAIL:takemizuteppo@gmail.com

22. しんもり さとやま こう 新盛里山耕

～「エコでおしゃれな 21世紀の里山暮らし」～

キーワード その他(都市と農山村の交流)



豊田市



米つくり農業塾 田植え前の集合写真



旬栽食講座の様子



炭焼き講座の様子

活動のきっかけ

- ◆先祖伝来の山や田畑を美しい里山に再生し、次世代を担う子ども達や孫へ引き継ぎたいとの想いを持った仲間が結集し平成20年に活動を開始

取組概要

- ◆里山での暮らしを作物の栽培や食を通して体験できる「旬栽食講座」を実施
- ◆炭材の切り出しから炭焼きまで体験できる「炭焼き講座」を実施
- ◆農業体験を企業と連携して実施する米つくり農業塾など各種イベントを実施

活動の効果

- ◇「新盛里山耕」開設から9年で里山の整備が進み、集落内の耕作放棄地が減少
- ◇各種体験講座やイベントの開催により都市住民との交流が活性化、Iターンによる定住世帯や人口が増加
- ◇これまで活動に関心のなかった地域住民に活動の重要性が理解され、協力者が増加

新盛里山耕 (豊田市役所足助支所)
豊田市足助町宮ノ後26-2
TEL:0565-62-0601 FAX:0565-62-0606

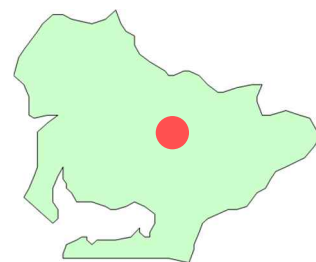
23. おばらOMIYAGEデザイン

～ 地元食材コラボによる新土産で地域活性化！ ～

キーワード

「食」の提供・活用

その他(農商工連携)



豊田市



平成25年豊田国際体操イベント時の店内の様子



本格派スイーツ「おばらボンヌ」



外箱組み立ての様子と「おばらじえんぬ」

活動のきっかけ

- ◆「和紙」「歌舞伎」「四季桜」が3大観光資源の小原地区で、地元食材を活用したお土産商品を開発し、地域資源の保存・伝承と地域経済の活性化を目指し、平成25年に活動を開始

取組概要

- ◆地域の名物食材（赤たまご、天然にがり豆腐、四季桜の葉）を活用した新たなお土産の開発
- ◆地元の異業種の若手事業主（養鶏業、小売業、旅館業、デザイン業）が連携して、洗練された商品デザインを企画

活動の効果

- ◇お土産品開発の第1弾「おばらボンヌ」と第2弾「おばらじえんぬ」の販売が好調
- ◇デザイン性と高級感のある商品が地域全体のイメージアップや観光PRに貢献
- ◇地域資源とのコラボ商品が話題を呼び、「うめジャム」や「米粉パン」など新たな商品が誕生
- ◇商品生産工程の一部を地元の「おばあちゃん」に委託することにより、高齢者の生きがいづくりに寄与

おばらOMIYAGEデザイン

豊田市平畑町東田722

TEL:0565-65-3611 FAX:0565-65-2837

24. あいちの山里産直コンソーシアム

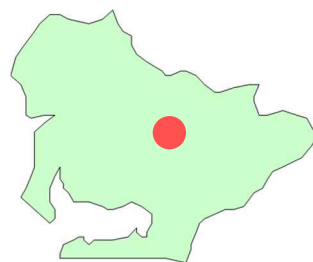
～ 山間部・人気直売所がシェフの卵と連携し
山の魅力一杯スイーツをPR ～

キーワード

「食」の提供・活用

地産地消

その他(ネットワーク)



豊田市



産直フェア あぐりん村での調理専門学生スイーツ発表会



ナゴワングランプリ会場での直売の様子



調理専門学生が開発したスイーツ

活動のきっかけ

- ◆県内産直所実態調査（H21・300施設を対象）で、課題（施設単体での運営が多く、集客イベントや情報発信の未確立）が判明
- ◆課題解決に向けたイベント協働開催の体制整備の機運が高まり、平成24年に組織を設立

取組概要

- ◆地域内の産地直売所を巡る「あいちの山里物語“食感・体感・感動”スタンプラリー」を開催
- ◆都市近郊の産地直売所で「産直フェア」を開催

活動の効果

- ◇スタンプラリーの参加者を分析し、結果を情報発信に活用
- ◇地域内の産地直売所が、企画から運営までを協働して取り組むことで、お互いの顔が見える関係が醸成
- ◇名古屋調理師専門学校と連携して地産地消の研究活動を行うなど、新たな連携の輪が拡大
- ◇年を重ねる毎にスタンプラリーの参加者や産直フェアへの来場者が増加
スタンプラリー参加者と産直フェアの入場者数の計 4千人→12千人（H24→H27）

あいちの山里産直コンソーシアム

豊田市武節町針原22-1（どんぐりの里いなぶ）
TEL:0565-82-3135 FAX:0565-82-3138

25. NPO法人 豊田・加茂 菜の花プロジェクト

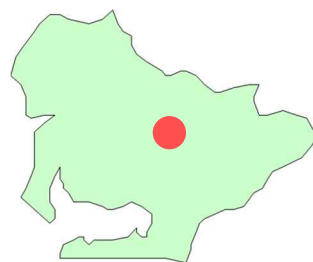
～ 菜の花を活用して安心安全な未来を届けたい ～

キーワード

自然・景観

子ども(教育・体験)

地産地消



豊田市



耕作放棄地を活用した菜の花ほ場の風景



中学校での菜の花の植え替え作業



イベントでの出展の様子

活動のきっかけ

- ◆環境保全、景観形成、若手農家の育成を目的に菜の花を栽培し、愛知万博（平成17年）へ菜の花を提供したことをきっかけに、NPO法人を平成19年に設立

取組概要

- ◆休耕田を利用して菜の花・ひまわりを栽培し、市内中学校で環境学習の出前授業を実施
- ◆地元油脂メーカーに委託し、採種した菜種 100%の「豊田・加茂のなのはな油」や菜種搾り絞粕から「なのはな醤油」を商品化

活動の効果

- ◇毎年、約 1 haの耕作放棄地を解消し菜の花等を栽培することで、景観保全に貢献
- ◇商品開発した「なのはな油」、「なのはな醤油」の道の駅や地元イベント等での販売が地産地消に貢献
- ◇中学校で行う「環境学習の出前授業」は、子ども達が農作業体験を通して食の大切さを学ぶことに貢献

NPO法人 豊田・加茂 菜の花プロジェクト
豊田市花丘町1-17
TEL:0565-41-4837 FAX:0565-34-3566

26. 有限会社 デイリーファーム

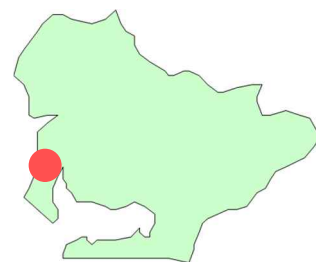
～ といたてたまごの店 ココテラス ～

キーワード

「食」の提供・活用

6次産業化

地産地消



常滑市



ココテラスの元気なスタッフ一同



ココテラスの外観



たまご加工品のスイーツ各種

活動のきっかけ

- ◆付加価値のある「あいちの米たまご」の魅力を多くの消費者に伝えるための販売拠点を構想する中、6次産業化の認定をきっかけに直売事業を平成27年に開始

取組概要

- ◆「あいちの米たまご」の直売・加工・イートイン施設として「ココテラス」を平成27年にオープン
- ◆自社スタッフが洋菓子店で研修を積み、独自のレシピを開発し、手作りによるスイーツを販売
- ◆地元小学生への食育活動を実施

活動の効果

- ◇地元農家と連携し、自社の鶏ふんを使った飼料米を餌として生産された「あいちの米たまご」は、地元農業の活性化に貢献
- ◇畑の中の洋風な店舗という外観から来店者も増加し、「あいちの米たまご」の知名度も向上し売上が増加
- ◇生協との交流や地元小学校への食育活動、消費者への農場見学の実施により、地産地消や農畜連携の学習の場を創出

有限会社 デイリーファーム

常滑市大谷字芦狭間5番地

TEL:0569-37-0072 FAX:0569-37-0256

27. JAあいち知多女性部

～ 食農出前講座 ～

キーワード

伝統・継承

子ども(教育・体験)

地産地消



手作りの案山子 立ててます



小学生の田植え体験



伝統料理「おこしもの」です！

活動のきっかけ

- ◆食生活が欧米化した中、次世代を担う地域の子どもや保護者を対象に、食文化の伝承と地産地消を推進するため「食農出前講座一食と農をとおした虹っ子とのふれあい」を平成14年に開始

取組概要

- ◆知多半島で古くから伝わる3月の桃の節句に供えられるお菓子「おこしもの」の作り方を、女性部員が中心となり地域の子ども達や保護者に伝授
- ◆米・野菜などを中心とする農業体験講座や調理実習を出前講座として実施

活動の効果

- ◇「食農出前講座」は、地元小学校や地域住民から地域貢献活動として高評価
 - ◇JA女性部員が中心となった関係組織と連携した継続的な活動は、子ども達に農業・食の大切さを学ぶ場を提供、地元に根付く活動として保護者など若い世代との新たな関係構築にも寄与
 - ◇講座数、参加者数も徐々に増加し、食文化の継承にも貢献
- | | |
|------|-------------------------|
| 講座数 | 43 → 54 |
| 参加者数 | 6,785 → 7,151 (H23→H27) |

JAあいち知多女性部

常滑市多屋字茨廻間1-111

TEL:0569-34-9958 FAX:0569-34-9951

28. くらかけさんろくせんまいだ 鞍掛山麓千枚田保存会

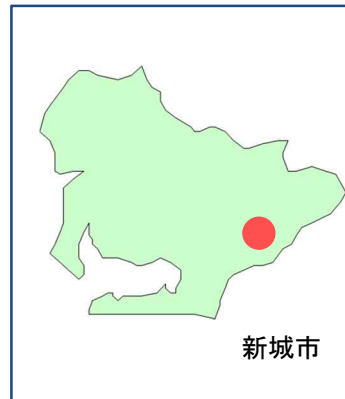
～ 地域の宝、四谷の千枚田 ～

キーワード

自然・景観

子ども(教育・体験)

企業



新城市



6月に1,500本の蠟燭を灯す、お田植え感謝のタペ風景



12月の収穫感謝祭の様子



「実りの千枚田」ラッピングバス

活動のきっかけ

- ◆かつては1,296枚あった棚田が373枚(H3)まで減少したことから、存続を危惧する地元住民らが立ち上がり、平成9年に保存会を設立

取組概要

- ◆「四谷の千枚田」の自然・景観の保全活動を実施
- ◆棚田での稲作を通じた農業体験学習や各種イベントの開催による都市と農村の交流を実施
- ◆企業の社員研修やボランティアを受け入れ、ビオトープを設置

活動の効果

- ◇棚田の保全活動やPR活動により、農作業道路やふれあい広場などの周辺整備が進み、癒しを求める都市部からの来訪者が年間25,000人(H27)に増加
- ◇「四谷の千枚田」を新たな地域の中核として位置づけ、地域住民が各種活動を協働で実施し、地域を活性化
- ◇美しい景観がマスコミ等にも評価され、知名度が向上

鞍掛山麓千枚田保存会

新城市四谷59

TEL: 0536-35-0747